

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三―五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
<http://www.neues-asahi.jp>

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大と非常事態宣言の発令により大きく社会が変わり、生活そのものが激変しています。

変化に対する柔軟性と現実を受け入れる寛容さと強さを持つためには時間が必要となります。それでも急激な社会の変化に生活の基盤となる日々の生活そのものが困難になっている人々も多いようです。

多くの悲しいニュースが流れてきますが、そんな中で優しい言葉や笑顔はどれだけ多くの人々を救っていることか。医療従事者や介護施設の方々の優しさは経験したことのある人は感謝の言葉であふれていることと思います。少しでも社会が良い方向に動いていくように一人一人の小さな行いが社会全体を変えていくと信じています。

非常事態宣言が発令された地域は、美術館はじめ図書館の閉館や演劇やコンサート中止、延期で関係者は多くの時間を費やして計画してきた企画がすべてゼロになり、また損失を負うことになっています。

芸術文化の存続が危機的状況になり、日本独自の芸術文化がこの数年で失われることにもなりかねない状況です。

社会的処方箋とまで言われている芸術文化を維持していくためにはどうしていったらいいのか、多くの関係者が頭を悩ませています。

ステイホーム、リモート、テレワーク、オンライン授業と新しい生活様式を取り入れながら一年が経ちます。しかし新しい生活様式では成り立たない職種もあり、それぞれが工夫をして過ごしています。

中長期的な計画の中でマスク、検温、消毒、ソーシャルディスタンスを守りながら来廊される人々に心の処方箋の役割が担えればと思っています。

今日は、久しぶりに小雨が降っています。雪の予報も出ていますが、木々は新芽がはじめて春はそこまで来ています。

早朝に窓際の結露を取りながら朝陽があがるのを見ていると、本当に自然界に包まれて生活している実感がありません。

自然は偉大で優しく、自分自身もその一部であることを感じます。そして、夕方に浅間、榛名、妙義を背景に元総社から群馬町上空には絵に描いたような夕焼けが美しく広がっています。

小さなことから始めることにします。それが積み重なって少しは成長できるかもしれません。

萩原葉子先生が言われたように「出発に年齢はない」のですから……。

一月二十四日

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

ノイエスふる本市 ミニ

〈企画〉

会期 二月六日(土)～十四日(日)
午前十時～午後五時(最終日は午後三時)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

恒例になりましたノイエスふる本市です。

今回は会期が短い都合もあり「ふる本市ミニ」となっています。とは言え「お宝本」があるかもしれませんのでステイホームのこの時期に懐かしい本の旅を楽しまれるのはいかがでしょうか。同時に絵画作品なども展示販売いたします。また、自由にお持ち帰りいただける本のBOXにもたくさんのお宝本が並んでいます。なお、最終日は午後三時終了となっています。

表現とカタチ

〈企画〉

Form and Expression

会期 二月二十日(土)～二十八日(日)
午前十時～午後五時(最終日は午後四時)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品作家

麻羅詩乃(江戸小紋) 都丸和也(陶芸)

佐藤遥果(ガラス) JUN(油彩)

千葉 功(漆芸)

表現方法の違う作家五人によるノイエス朝日で初のグループ展です。

若いエネルギーと鍛錬された技術により制作を続ける作家の「表現とカタチ」の世界をお楽しみください。

* ご来廊の節はマスクの使用をお願いいたします。

ギャラリーの一隅から

早めに出動した日にギャラリーの一隅で箱の中を整理していると、思い出とともに小説家、詩人、画家、写真家、美術評論家、編集者からきた書簡や写真が次から次へと出てきました。

すでに他界された方も多く、捨てるに捨てられないものばかりです。断捨離という言葉が流行って、身の回りを最小限にしようと試みても捨てるに捨てられないものが結局は元の箱に収まることになりました。

しかし、これではいけないと決心して「えい、やあ」と心を鬼にしてシュレッターで処分、ゴミ箱へ……。それでも来廊される作家の三十数年分の写真が出てくれば差支えない程度に差し上げています。書簡類は個人情報というものもあるのでシュレッター行です。

書簡が来ているということは私も相手に出しているということになり、すでに処分されているか……とも思います。

記憶はほんの少しかだけ過去の遺物として微かに残りますが手元にある数人の作品や作家の器は自分の一部になっています。磁器や陶器、ガラスの器の数々。油彩、書、写真、そして一針一針縫われた布巾やベッドカバーや時間をかけて織られたタペストリーは私的空間を豊かにしてくれます。

最近、父が若かりし時に撮影した上毛電鉄の桐生駅から桐生市街の夜景作品を持ち帰りました。「織都」と題名がついていました。今では撮れない実にいい写真です。

作品というものは、人の生活を支え、心を支える力をもっているものです。作品との出合いは一人の生活の原動力にもなり、支えにもなります。

また、普段あたりまえに使っている言葉も一人に与える影響は大きなものです。普段発している言葉の大切さ、そして便箋やハガキに書く言葉にも心を感じられるような姿勢で仕事も生活もしていきたいと思えます。

そして、一人の作家が一人の人間に与える影響も大きなものであることを忘れてはいけません。

ノイエス朝日が皆様にとって作家と出合い、そして作品と出合える「場」としてコロナ禍を乗り越えて新しく生まれ変わっていくことを願って今年も過ごせればと思っています。雲間から日差しが差し込んでくるように……。

多くの作家、美術館、ギャラリー、演劇などの芸術文化関係者にエールをおくりたいと思います。